

令和5年度 校内研修

1. 主題 教職員の、児童の、情報活用能力の育成

—自らの学びや考えをより効果的に表現する児童の育成—

2. 主題設定の理由

「GIGAスクール構想」に基づき、情報端末が一人一台ずつ配られ、今後、児童たちの学びへの意欲や学びの質をさらに高め、深化させることが求められている。

昨年度の校内研修は、情報端末やICT機器に関して、「教職員の、児童の、情報活用能力の育成—情報端末・ICT機器等を活用した主体的・対話的で深い学びのある授業づくり—」というテーマで研修に取り組んできた。

成果として、国語科においてデジタル教科書やロイロノートを活用した、主体的・対話的で深い学びの作り方を学ぶことができた。また、国語科以外の教科では、ロイロノートやデジタルコンテンツの使い方を研修し、授業に取り入れることができたことがあげられる。また、様々な場面でロイロノートやフォーム、オンライン会議などを用いたことにより、教職員・児童ともに、ICT機器の活用方法のスキルが向上した。

課題として、ロイロノートを取り入れて実践することで手一杯になってしまったこと、ロイロノートと紙のノートの使い分けに課題が残ってしまったこと、一授業を実施したものの、教職員同士でのフィードバックが不足していたことなどがあげられる。

そこで、過年度の成果と課題を受けて、今年度の校内研修では、自らの学んだことや考えを、より効果的に表現することをキーワードに研修を行っていく。

まず、今年度の校内研修は、カリキュラムマネジメントの視点を持ち、児童が目的意識や相手意識をもって意欲的に課題に取り組めるような学習活動の工夫を考えて、授業づくりをしていく。担当学年ごとの班別研修を設定することで、他学年との交流を取り入れた学習活動や、教科横断的な学習活動を含めて検討し、発達段階に応じた授業実践を行っていききたい。一人一台タブレットが配付されたことで、写真、録音・録画、スライド機能などを用い、学習過程を記録したり成果物を作成したりすることは容易になった。そこに加えて、従来までの表現方法である紙面や、言葉で話して説明することなど、学びや考えを表現するための方法は多岐にわたって広がっている。各学年、各教科の特性に合った表現活動を、班で授業実践を行いながら検討していく。授業実践を通じて、児童は多様な表現方法が身につけられるとともに、自分に合った表現方法や、その活動の目的に合った表現方法を自ら選択し、より効果的に自分の学びや考えを表現できるようになっていくと考えられる。

次に、ICT機器やロイロノートの活用方法について研修を行い、日々の授業の中に導入できるように、操作力を高めていく。日々ICT機器を使うことで、児童の操作力も高まっていくと考えられる。ICT機器やアプリケーションは即時性、共有性、保存性が優れており、それらの性質を利用した、効果的な授業を検討し、授業実践を行っていききたい。デジタル教科書やロイロノートをはじめ、様々なソフトウェアやアプリケーションを活用した授業設計の先行事例を参考に、本校でも教職員が体験し、授業で実践していく。教職員・児童ともに操作力を高めていくことで、自らの学びや考えを表現する便利な手段として、ICT機器やアプリケーションを自由に選択し、活用することができると考えられる。

また、情報活用能力は、学習指導要領において「学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力であり、さらに、このような学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むものである。」とされている。情報活用能力は、すべての授業において、力を高めていくことが可能であるため、どのような学習場面でどのような力を育てられるのかについて理解を深めていきたい。さらに、ＩＣＴ機器やアプリケーションの活用技能だけでなく、情報に関するモラルやマナーなどの力も高めていく必要がある。

以上の研修と実践を繰り返していく中で、教職員や、児童の情報活用能力を高めるとともに、自らの学びや考えをより効果的に表現する児童の育成につながると考えられるため、本主題と副主題を設定した。

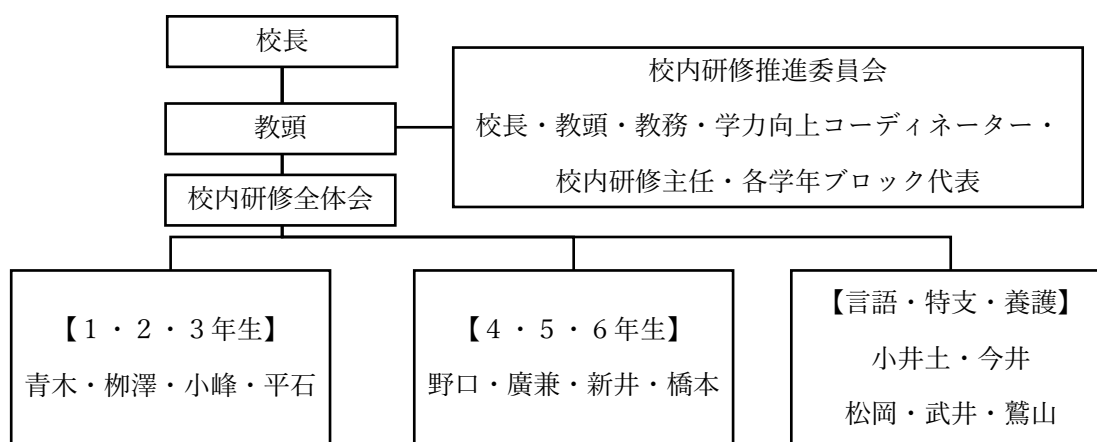
3. 研修のねらい

自らの学びや考えをより効果的に表現するＩＣＴ機器の活用法に関する研修を通して、教職員の、児童の、情報活用能力の育成を目指す。

4. 研修の内容

- ・ＩＣＴ機器の活用の有無に関わらず、より効果的に表現する力を高めるためには、どのような学習活動の工夫が行えるか検討し、授業実践していく。
- ・ＩＣＴ機器やロイロノート、各アプリケーションを日々の授業の中に取り入れて、教職員と児童の操作性を高め、利便性や有効性を班別で検討する。
- ・情報モラルを高めるための研修を行い、児童や保護者への啓発を行う。

5. 研修の組織



6. 研修計画

日時		推・全	内 容
4月 上旬		推進①	今年度の校内研修の内容及び組織・日程の原案作り
4月 17日	月	全体①	今年度の校内研修の内容及び組織・日程の検討
5月 1日	月	全体②	研修の内容等の提案及び実践事例の共有
5月 15日	月	全体③	各部会の計画立案
6月 19日	月	全体④	班別研修 1、学力向上委員会
7月 21日	金	全体⑤	班別研修 2・中間共有
8月 3日	木		学力向上委員会
9月 11日	月	全体⑥	班別研修 3
10月 10日	火	全体⑦	班別研修 4
11月 8日	水		授業訪問（研究授業及び授業検討会）
11月 20日	月	全体⑧	班別研修 5
12月 11日	月	全体⑨	班別研修 6
1月 10日	水	全体⑩	班別研修 7・共有会
2月 26日	月		学力向上委員会
3月 11日	月	全体⑪	研修のまとめと次年度の方向性について

○推進委員会については必要に応じて招集して行う。

○グループごとの代表授業については、計画的に実施し、2学期中に完了を目指す。

○代表授業に関連した授業をグループごとに計画し、一人一回実施する。

引用文献

文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編」